

## 1. 授業の目的と概要

動学的一般均衡マクロモデルの分析手法習得およびコンピュータ実習を行う。

## 2. 学習の到達目標

近年のマクロ経済分析においては、経済変動・経済成長といった経済の動的な変化に注目することが当然となっている。本演習では、好景気・不景気という周期的な経済変動を分析するための基本的なツールであるリアル・ビジネスサイクル (RBC) 理論を学び、自由に応用できるようになることを目指す。また、必要に応じて動的な経済をコンピュータシミュレーションで分析する手法の習得も目指す。なお、参加者の希望によっては長期的成長を説明するツール (内生的経済成長理論) を扱うこともあり得る。動学分析の手法は他分野にも応用可能であるので、マクロ経済専攻以外の院生の参加も歓迎する。

## 3. 授業の内容・方法と進度予定

最近出版された RBC の入門書 (the ABCs of RBCs) を用いて様々な手法を学習する。参加者の希望にもよるが、本授業では基本的な手法を説明した後、貨幣や価格・賃金の硬直性、開放経済などいろいろな応用がされている当該書の Part 2 を中心に扱う予定である。以下に代表的なトピックを挙げる。

- ・ Cash in Advance Model
- ・ Money in the Utility Model
- ・ Staggered Pricing Model
- ・ Staggered Wage Model
- ・ Small Open Economy Models

また、上記のモデルを理論的に学習するだけでなく、実際に数値を当てはめて経済の動きをコンピュータ上でシミュレートする。それに用いる Dynare というプログラムパッケージの利用法は授業で説明します。各自練習する時間も設ける予定である。尚、上記の演習内容は演習 Ia, 演習 Ib と通年でおこなう。

## 4. 成績評価方法

報告および平常の参加状況による

## 5. 教科書と参考書

McCandless, George T. (2008) The ABCs of RBCs: an introduction to dynamic macroeconomic models, Harvard university press.

(参加者の希望によっては次の教科書も用いる) Acemoglu, Daron (2009) Introduction to modern economic growth, Princeton university press.

## 6. 予習と復習について

報告担当者は十分な準備が求められます。

## 7. その他 (使用言語、履修の条件、連絡先、オフィスアワー等)

- ・ 履修の条件: 本授業は理論経済学 II 演習と連続で行うので併せて履修すること。
- ・ 予備知識: 中級マクロ経済学を履修済み・同時履修しているか、同様の知識があることが望ましい。シミュレーションの方法は授業中に説明するので特に予備知識は必要ない。
- ・ 使用言語は日本語、報告は日本語・英語ともに可。連絡先・オフィスアワーは初回の授業でお伝えします。

